

# 碩菴学園in'04

RAKUNO GAKUEN



Green Stage

「第8回 白樺祭」

Vol.102  
2004.7.31

聖句

「昼は雲の柱が、夜は火の柱が、民の先頭を離れることはなかった。」  
出エジプト記 13 章 22 節  
解説：この伝承は、古代イスラエルの信仰の民が荒野の40年間を歩み抜いた、その原体験を語っている。

# 大学附属動物病院完成

## 伴侶動物医療部門



待合室

磁気共鳴断層撮影装置 (MRI) をはじめ、最新のX線CT、内視鏡、超音波検査の機器や血液自動分析装置の導入で診断精度が向上し、清浄度の高い陽圧手術室を含む4手術室で専門性の高い手術が可能です。また、診療参加型学生実習への利用を考慮して広く設計してあります。



処置室



MRI検査室

## 生産動物医療部門



牛診察室

生産動物獣医師養成の本学の伝統を反映して、日本の獣医系大学の中では、最も充実した診療教育施設です。往診準備室、二つの牛診察室、牛手術室、馬麻酔導入覚醒室、馬手術室が個体診療を支え、共通検査室、細菌培養室、胚移植操作室は牛群の集団衛生管理と生産活動を支援します。



入院棟



実習棟

## 環境汚染物質・感染病原体分析監視センター

環境汚染物質の動物や農作物への移行を監視し、その無毒化、毒性低減化を図る技術開発と、家畜感染症の予知と防疫体制の開発を目的としています。

感染症病理診断室



大学附属動物病院長

## 新山雅美

酪農学園大学附属動物病院は移転新築し、2004年4月6日に開院しました。長年にわたる学園関係者の方々のご尽力とご厚情の賜物だと感謝しております。

病院は、学園ロータリー奥の旧機農高校とほ場跡地の一角にあり、24,623㎡の敷地に、動物病院本館5,663㎡、臨床講義棟690㎡、生産動物の実習棟377㎡と入院棟488㎡、感染動物管理棟275㎡、野生動物医学センター105㎡、動物処理棟486㎡、炭化プラント277㎡、排水処理施設56㎡、堆肥場116㎡、乾草庫159㎡の建物群から成り立っています。建物床面積は合計8,728㎡で、欧米の大学附属動物病院に近い大きさになりました。

動物病院本館1階は、犬猫などの伴侶動物と牛馬など生産動物の診療診断施設で、2階は伴侶動物の入院室と手術室群、市民講座用の大会議室があります。3階は「環境汚染物質・感染病原体分析監視センター」という研究域です。臨床講義棟の1階は生産動物の実習室で、実習棟、入院棟、感染動物管理棟は動物飼育棟です。動物と排出物の処理を行う施設が動物処理棟、炭化プラント、排水処理施設、堆肥場、乾草庫です。

新動物病院は、国際水準の診療参加型臨床教育を実施できるよう診療室を拡充しました。生産動物医療部門は、酪農学園の伝統である、畜産物の生産と安全を守る生産動物医療に貢献する臨床教育と、研究および情報発信の拠点の創出を目指し、課題解決のためのプロジェクト研究と連携した個体診療重視の臨床活動に重点を置いていきます。この巨大な施設からの排出物の処理には、資源循環を念頭に置き、工夫を凝らしました。動物処理棟はBSEに対応可能な焼却炉付き病理解剖室を備え、固形排出物の無害化と再資源化のために炭化プラントを、排水処理には、環境への負荷を軽減するための膜ろ過方式を採用しました。

伴侶動物医療部門では、地域社会と連携した伴侶（愛玩）動物医療の臨床教育と研究拠点の創出のために、専門診療科の充実を目指しています。野生動物医学センターは野生動物医学を軸とした環境問題研究の拠点の創出を目指した施設です。

これらの施設設備の充実した新病院を活かす道は、「開かれた大学の開かれた動物病院」として、学内外の異なる分野の方々に、動物との関わりをテーマとした交流の場を提供し、新しい付加価値を生み出していくことではないかと考えています。

## 野生動物医学センター



野生動物医学センター

## 動物処理棟



病理解剖室

## 炭化プラント



炭化プラント内部

動物処理棟ではBSE（牛海綿状脳症）などに感染した動物を隔離・検査し、1,200度で焼却処理します。炭化プラントでは非感染性の排出物を800度で炭化・無害化し、土壌改良剤などへの再資源化を試みています。排水処理施設では膜ろ過方式で、大腸菌除去レベルまで浄化し、環境への負荷を減らすことにも配慮しています。

## 排水処理施設



排水処理施設



## 学園トピックス



### 大学・大学院・短期大学部

#### 附属動物病院 落成式・祝賀会挙行

今年4月に完成した酪農学園大学附属動物病院の落成式・祝賀会が5月28日、シェラトンホテル札幌において盛大に行われました。

新山雅美病院長の経過報告の後、式辞に立った平尾和義理事長は「念願の動物病院が落成を迎え、関係者の皆さんからのご支援・ご協力に対し、深く感謝申し上げます」と述べ、続いて「旧家畜病院は1968年、獣医学科増設とともに開院し、その後増改築を重ね、教育研究を推進してきました。しかし、近年の獣医学教育の国際化対応など、欧米並みの教育水準が求められ、適正規模と内容を持つ動物病院の設置が必須となりました。学部学科を超えた全学共同利用の施設として共に連携しながら、多岐にわたる教育・研究プロジェクトを展開したい」と決意を新たに力強くあいさつしました。その後、工事関係者に感謝状と記念品が贈呈され、一期生でもある北村直人衆議院議員、金川弘司道獣医師会長より祝辞が述べられました。



引き続き行われた祝賀会では、大谷俊昭大学学長が、病院を建設した4つの理由（①獣医臨床教育の充実②獣医学部の設置理由に基づくもの

③伴侶動物医療に関するもの④広い視野を持った動物医療の展開）を挙げ、「新築した理由を現実のものとするよう努力する」と述べました。さらに本館の壁に掲げられた聖句「一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる（ヨハネによる福音書第12章）」や、完成した病院を見ることなく亡くなられた、前院長の故小谷忠生先生をしのぶ記念樹についてふれ、「一粒の麦として先生は温かく、厳しい目で病院をご覧になっていると思う。病院関係者一同は姿勢を正して、豊かな実を結ぶことを約束する」と述べました。



#### 好天に恵まれ 第8回白樺祭開催

6月25～27日の3日間、第8回白樺祭が開催されました。今年のテーマは「バクハチ」。この白樺祭で日ごろ勉強していること、サークル活動などのエネルギーをバクハツさせてほしい、そして実行委員が集めたミツ（白樺祭）をもっと甘くしてほしい、という思いが込められています。

25日の前夜祭では、仮装大会などが行われ、安宅一夫短大部学長が「学生が目標に向かってミツバチのようにコツコツと努力する姿に敬意を表します。ぜひその力を出し切ってほしい」とあいさつしました。

26日は朝10時から模擬店が開店し、たくさんの客でにぎわいました。ローンでは「ふれあい酪農パーク」が行われ、訪れた子供たちが楽しそうに羊と触れ合う姿が見られました。午後からは「YOSAKOIソーランin白樺祭」が行われ、近隣の大学や江差町から7チームが駆けつけ、

大勢の観客を前に熱い踊りを披露しました。

27日のゲストライブは、今年は大泉洋さんとオクラホマのお二人を迎え、トークショーを行いました。北海道を拠点に活躍する彼らだけに、大勢の観客が集まり、笑いの絶えない1時間を過ごしました。

白樺祭実行委員長の長尾真志さん（食科3年）は「先輩をはじめ大勢の方に手伝っていただきました。10回20回と白樺祭を続けていくことが先輩たちへの恩返しだと思うので、僕たちが後輩につなげていけたらと思います」と話していました。



#### 健身館完成 サークル施設が充実

今春、新しい格技・サークル会館「健身館」が完成しました。3つの武道場と約30の部室が一体となった4階建ての施設で、ほかにミーティング用の会議室、ロッカールーム、シャワー施設などを備えています。吹き抜け部分には、ロッククライミング用の壁も設置されています。

また、ほとんどの体育会系サークルが健身館に移動した東部室棟は、空き部屋と武道場を改装して新しく茶室や7つの部室を作りました。これらを活用した各サークルの活躍が期待されます。





## とわの森三愛高等学校

### 全道大会特集

#### 男子バレー部

'02年インターハイ全道大会決勝東海第四戦。あと1点取れば全国大会出場という場面でまさかの逆転負け。これまでにない屈辱を味わい、その後も強豪東海第四には何度となく全国大会出場の夢を阻まれました。

しかし、今年の春季大会とインターハイ地区予選ともに1位で通過。準決勝の札幌藻岩戦では、相手の粘り強いレシーブと自分たちのミスに苦しんだものの、セットカウント2対1で念願の全国大会出場権を獲得しました。

その後の決勝、東海第四戦では序盤から勢いに乗り、持ち前の粘り強いレシーブからバラエティーに富んだ速い攻撃で、常にとわの森がリードを保ち、相手に付入るすきを全く与えず、結果は2セットともに25対19のストレート勝ち。これからは、さらに心と技を磨き、8月に広島で行われる全国大会では、上位入賞を目指して頑張ってきます。



#### ソフトボール部

4月に15名の新入部員を迎え、総勢48名でインターハイ予選に臨みました。大勢の部員を抱え、限られた場所と時間で十分な練習ができないこともありましたが、松本主将を中

心に「全国制覇」という目標実現に向けて予選を戦いました。全試合守備率100%、失点なしという結果は、大きな成果だったと思います。一昨年が準優勝、昨年は1回戦敗退。今春の全国選抜はベスト8でした。これからも初心を忘れずに高いモチベーションを持続させ、8月1日から島根県で行われるインターハイでは「悲願達成」と「油断大敵」を合言葉に一丸となり、技術向上を目指して練習に取り組みます。応援してください。皆さんのためにも、北海道の代表として正々堂々と自信を持って戦い、北の大地に優勝旗を持ち帰れるように頑張ります。今後ともご声援よろしくお願い致します。

- ★札幌支部大会 [6/1~3 石狩スポーツ広場]  
準々決勝とわの森三愛 15-0 札幌 啓成  
準決勝とわの森三愛 7-0 札幌 東陵  
決勝とわの森三愛 4-1 当別
- ★全道大会 [6/19~21 松前町野球場ほか]  
1回戦とわの森三愛 7-0 苫小牧総合経済  
2回戦とわの森三愛 13-0 滝川 西  
準決勝とわの森三愛 10-0 松前  
決勝とわの森三愛 7-0 札幌 東商業  
(5年連続9回目の優勝)



#### 体操部

女子一部団体は7月31日から広島県で行われる全国高校総体に出場します。今後とも応援よろしくお願い致します。

- ★高体連札幌支部大会  
男子一部 団体 優勝  
柴野・木藤・国田・能城  
女子一部 団体 優勝  
藤谷・田島・松浦・近藤  
女子一部 個人 山田 12位  
男子二部 個人 毛利 4位、重信 10位  
女子二部 個人 古谷 26位、四條 30位

- ★高体連全道大会  
男子一部 団体 準優勝  
女子一部 団体 優勝  
女子一部 個人 山田予選 21位  
男子二部 個人 毛利 9位、重信 22位

#### バドミントン部

団体戦準決勝で札幌北斗高と対戦。いつもストレートで勝っていたのですが、予想以上に苦戦し、決勝相手の札幌静修高には自分たちの力をすべて出し切ることができませんでした。気持ちをしっかりと個人戦に切りかえて、ダブルスでは実力を発揮し、見事全国の切符を手にすることができました。応援ありがとうございました。

- ★高体連  
○団体 南北海道 準優勝  
○個人(複) 南北海道 準優勝 島・高橋組 3位 林・遠藤組  
(単) 南北海道 3位 遠藤友美  
ベスト8 高橋清絵、島百香



#### ソフトテニス部

全国大会出場は果たせませんでした。現在は国体札幌支部大会に向けて1、2年生を中心に毎日練習に励んでいます。

- ★高体連全道大会  
○団体男女 準優勝(男子は初の決勝進出)  
○個人女子 ベスト32位  
菅原・笹岡組、六田・菊地組  
正木・武田組、都田・鈴木麻組  
伊藤・滝本組



## 酪農学園の新しい取り組み(食品流通学科)

### 身近にある商品開発のヒント

食品企画開発研究室 本多 芳彦 教授



現代のように市場が成熟してくると、消費者のニーズはますます見えなくなります。食品業界においても同様ですが、毎年、確実に多くの新商品が発売され、その中にはヒットしているものもあります。

生活空間や生活行動を見ると、私たちは満たされていない物事に遭遇したとき、無意識な欲求を抱きなが

ら、形にできずに諦めていることが多いことに気がつきます。一方、企業では技術的なシーズはあるが、具体的な商品イメージを抱けずに、断念してしまうこともあります。この両者の願望を効率的に結合させるシステムを見出し、具体的な商品を描けるようにするのが商品企画です。

本研究室ではこの方法を把握する

ことを目的に、3年生が食品会社の商品企画開発室に所属したと仮定し、会社訪問、グループインタビューなどを行った後、新商品の企画を行い、それを仮想入社した会社の開発担当者前で提案し、厳しい評価を頂くという取り組みを行っています。この取り組みでは個々の創造力を十分に発揮しなければ、意外性に富むような企画はできません。そのためにも発想性が豊かで、社会性のある意欲的な人材の育成に努めなければならないと考えています。



### ゼミで得たもの



石川千尋さん



飛田翔太郎さん



長濱亜希子さん



梶井紫乃さん

◆4年目のお二人は、昨年、食品会社社長らに企画の提案を行ったそうですが。

長濱：一生懸命考えて企画を作ったつもりでしたが、多くの指摘をいただき、社会の厳しさを感じました。

梶井：企画の段階までなので、頭の中で考えるだけ。私はより具体的にしたいという気持ちもありました。

◆企画の難しさは何ですか？

長濱：求められているものは分かっても、発想力が追いつかなかったり、現実味がなかつたりで、理想と現実を結びつけるのが大変でした。

梶井：既に商品として世の中にあった、というのがけっこうあるんです。

◆この取り組みで学んだことは？

長濱：集団で一つのものを作りあげ

ることの楽しさや難しさ、そして自分から考えて行動しなくてはならないことを学びました。

梶井：どうしたらグループの考えがまとまるのか考えつつ商品を企画するのは、多大な労力が要るんですね。

◆3年目のお二人は現在どんな活動をしていますか？

飛田：企業への質問に対する回答をまとめて、インタビューするためのキーワード選びをしています。

◆今後の活動への意気込みは？

飛田：今年は実際に商品にできるかもしれないので、最終目標として試験販売ができるような商品を考えています。

石川：メンバーで協力してやれたらいいと思います。それで出来上がっ

た商品が注目されるようになれば。◆ゼミでの経験をどう生かしていきたいですか？

長濱：入社した時、自分の考えを持ってそれをどんどん提案していきたいです。

梶井：集団で物を作って行く取り組みで学んだことは多かったです。今後もいろいろな事に問題意識を持って取り組みたいです。

石川：来年の就職活動に生かしていきたいです。

飛田：いろいろな事を考え続ける意識をこのゼミで養えると思うので、それを持ち続けていきたいです。



食品流通学科第7期卒業生

村山 史子 さん  
ホームグリーン勤務

今、私はホームセンターの植物コーナーを担当しています。学生時代とは一転、毎日変化する現場で働くことは容易なことではないと身にしみています。学生時代には求められなかった責任やチームワークの大切さは想

像以上のもので、それに対して自分がどこまで応えることができるのか、頭を悩ます日々です。

ゼミでは、実践性を重視し、社会(食品企業)との関わりを持たせながら、商品企画を進めていました。しかし、そこでの経験は、食品関係の企業以外でも活かせると考えています。仕事の内容こそ違っても、仕事に対する姿勢は、共通するものがたくさんあるからです。

実際に社会人として働いている中で、多くの問題に遭遇していますが、これは経験を積むことで解決できるものと考えています。そして、一日も早く、本当の意味での「社会人」になりたいと思っています。



## 学生たちの挑戦

### 学生らによる公園づくり 「憩いの森」完成

環境システム学部地域環境学科3期生でつくられたコリンの会が中心となって、大学敷地内に小公園をつくりました。

キャンパスのほとんどが農地で、憩える森はほとんどありません。学



学園内にあった電信柱を利用した橋。  
奥は案内板。

生の憩いの場だけでなく、キャンパスを遠足コースとしている近隣の幼稚園、小学校の休憩場所にもなれば、という思いでこのコリンの会は結成されました。

森は、創世寮の前の林地で、2001年10月に林地の周囲計測と植生調査から始め、公園の構想を練っていききました。2002年11月に大学・短大両学長に要望書を提出し、2003年



砕いたレンガを敷き詰めた遊歩道。  
円盤状のレンガを半分埋めて作った花壇。

度から構想に沿って作業が開始されました。講義のない時間を利用し、ごみ拾い、遊歩道や広場、花壇の作成を進めていき、同年11月に完成しました。

コリンの会は「私たちのモットーは、お金をかけず汗を流すこと。このモットーを最後まで貫き通したことは、私たちの誇りです」と完成報告書の中で述べています。



間伐材を輪切りにして防腐剤を塗って敷き詰めた広場。

### インドでのボランティア体験

酪農学科4年 松本 超一郎  
東亜学園高等学校出身



クリケットを楽しむバングラデシュの子供たち

僕は去年の12月に硬式野球部を辞め、春休みを使って単身、インド・バングラデシュへ行きました。野球部には大変迷惑をかけましたが、親しい先輩が引きとめてくれて、人からこんなに必要とされたのは初めてでした。今でも、彼らには申し訳ない気持ちと感謝でいっぱいです。

僕はインドのカルカッタにあるマザーテレサの施設の「死を待つ人の家」「障害者の施設」で死に直面した患者さんを相手に、1ヶ月間働かせてもらいました。ここではボラン

ティアが世界中から大勢集まって働いています。僕は特別なことをしたわけではなく、ただ、うんちまみれになっている患者さんを洗ったり、食事を与えたり、動けない人たちを車いすで運んだり、誰でもできることをしていました。

僕が働いていた施設では、毎日一人二人死んでいきます。死を感じ受け入れながらこの体を動かす。一瞬の後悔もしないように……。同じ時は戻ってこないことも体に染み付くように知っている。永遠の別れを何度も繰り返してきたから……。最も貧しい人の中には、僕らが考えられないくらい美しい心を持った人がたくさんいました。

ゴミに埋もれ、うんだ傷口にハエがたかり、誰も見向きもしてくれない路上で生きてきた彼らが、人生の最後の最後で、その壮絶な人生を呪うことも恨むこともせず、ただ「Thank you.」と感謝にあふれる言葉を口にして死んでいきます。その姿は、彼らに会えただけでここに来たかいたがあった、彼らの世話を通

じて彼らを受えただけで、今まで生きてきたかいたがあった、と思わせてくれました。ここで過ごした45日間は、21年間生きてきたよりも価値のある人間らしい時間でした。

日本に帰ってきて、すでに3ヶ月が経ち、僕のこの体験は、今では思い出となってしまいました。けれども思い出は、胸の中に大切にしまっておくのではなく、また今の自分と比べる必要もありません。ただ、彼らの笑顔を思い出す時に励まされるように、一歩踏み出す勇気に変えることができます。また、ここに僕の帰るべき原点がある、そう思うことができます。夏休みと卒業後に再びこの場所を訪れようと思っています。



インド・マザーテレサの施設「障害者の家」にて



## 活躍する同窓生 Vol.10

## 魅力ある学校を目指して

栃木県立那須拓陽高等学校

齊藤達夫 さん

酪農学部酪農学科 1967(昭和42)年卒業



初夏を迎えるのどかな田園風景と新興住宅地が隣接する西那須野に栃木県立那須拓陽高等学校の齊藤達夫さんをお訪ねしました。

那須拓陽高等学校は、昭和20年に那須農学校として開校し23年に那須農業高等学校、平成元年に現在の校名となりました。本校舎のほか、大山・乃木・ニツ室・喜連川の農場を有し、現在、普通・農業経営・生物工学・食品化学・植物文化の5つの学科、生徒847人が学んでいます。

齊藤達夫さんは、この学校に赴任して23年。これまでに、5年に一度開かれる全日本ホルスタイン共進会に自家繁殖した牛で入賞するなど、農業後継者育成のためのさまざまな取り組みが高く評価されています。

## Q. 酪農学園大入学のきっかけは？

A. 私の両親は、小さな旅館と農業を営み、父と兄は、水田のほかに和牛・豚・鶏を飼育していました。昭和26年には、兄が乳牛を北海道から導入し、「家畜経営の基本は、良い家畜の飼育にあり」という意識から共進会に出品していました。私は、将来どこか広い所で酪農をやろうと思い、地元の農業高校に入学しましたが、そこでは実家の経営より優れたものを見出すことができませんでした。

そんな時、兄が通信教育を受けていた関係で酪農学園を知り、北海道に渡る決意をしたのです。

## Q. なぜ教員になったのですか？

A. 大学時代、寮の近くに住む故田垣住雄教授にたびたび夕食をごちそうになりながら、「日本の農業は草を敵にしている。草を味方にする農業をやれ」「草は、牛の体を通して人間に素晴らしいタンパク質を供給してくれる」と教えを受け、そういう思想を一人でも広げたいと考えたの

です。「良い牛を作るためには良い草を。そのために良い土を作る」なのです。

## Q. 教員になってからの取り組みについて教えてください。

A. 卒業後、同じ県内の喜連川高校の畜産教師として赴任し、技術の不足を痛感しつつも、泌乳量8,000kg、体格得点80点の牛を作り、生徒たちが酪農に興味関心を持ってくれるような農場にすることを目標としました。しかし、周囲の「学校農場の牛は生徒の実習用だから、駄牛でよい」という考え方もあって、目標達成まで15年かかりました。

昭和57年、農場も大きく牛の飼養頭数も3倍以上ある本校に赴任。生徒と共に堆肥作り、飼料栽培に汗し、またこのころから盛んになった受精卵移植も積極的に導入し、成果が着実に上がるようになりました。現在は19頭の平均乳量8,500kg、年間1万kgを超える牛が10頭、牛郡審査平均点85点、夢だった90点が5頭、5年に一度の全日本ホルスタイン共進会でも2大会連続1等賞入賞を果たすことができました。

そのほかにも、在学中に素晴らしい実績をあげた生徒に学

校で繁殖した優秀な子牛を校長賞の副賞と授与する制度や、オランダ、ニュージーランドへの研修、また、北海道根釧地区への酪農実習は、もう30年近くも続いています。生徒たちにはいろいろな体験をしてほしいと考えています。他人の釜の飯を食べる、遠慮しながら生活してみる、そんな体験が大事なのです。

それから、現在は最高の農機具等をそろえてもらっていますが、基本は手作業です。また「〇がないから〇ができない」というのではなく、今あるものを生かして、自分たちで知恵を絞って作りあげていくことが大事で、この学校では豚舎、鶏舎を育成牛舎に改良利用し、作業の効率化を図るために自動給餌やミルカーも改良考案しました。サイレージ作りは、牛が食べたならたちまち元気になる幻のサイレージを求めて、現在も試行錯誤の繰り返しです。

栃木県の酪農家は約1,300戸。牛乳の生産は全国で第2位です。地域の農家や生徒の保護者より少しでも良い実績、特徴のあることを実践する魅力ある学校を目指しています。



## Q. 卒業生、在校生にメッセージを

A. 若い方には「継続は力なり」「指示待ち人間になるな」、在校生には、ぜひ入学した時とは変化した姿になって巣立ってほしいと思います。



プロフィール 昭和19年12月1日生まれ。59歳。栃木県出身。妻と3人の子供、両親の7人家族。趣味は牛。





## 同窓会だより

## ◆◆ 熊本県まきば会同窓会 ◆◆

3月13日(土)、熊本県酪農学園まきば会同窓会が熊本市にて開催され、高橋節郎同窓会連合会長が出席して「熊本県酪農学園まきば会」結成総会と交流会が行われました。

## ◆◆ 茨城県支部同窓会 ◆◆

4月4日(日)、茨城県支部同窓会が茨城市にて親ぼくの集いを開催しました。学園の思い出話を中心に歓談交流を行い、有意義な楽しい一日を過ごしました。

## ◆◆ 大学校友会同窓会 ◆◆

5月22日(土)、新札幌アークシティホテルにて理事、代議員会総会が開催され、03年度の事業報告ならびに収支決算、04年度の事業計画、予算について審議原案通り承認されました。総会終了後の懇親会では相互の交流を深め予定通り終了しました。



## ◆◆ 短大5期同窓会 ◆◆

5月22日(土)、短大5期同窓会を学内で行いました。高橋会長の案内で施設見学し、学習交流会を終了しました。その後、札幌のホテルにて懇親会を開催し、有意義な交流会のひとつを過ごしました。

## ◆◆ 同窓会連合会の理事、評議員、幹事会 ◆◆

5月24日(月)、札幌ガーデンパラスにて総会が開催され、高橋会長のあいさつに続いて、03年度の事業報告・収支決算、04年度の事業計画・予算について審議され原案通り承認されました。交流会では今年度で退任される木村敏雄事務局長に感謝状、

記念品等の贈呈を行いました。

## ◆◆ 近畿支部同窓会 ◆◆

5月30日(日)、大阪市で「生涯教育講座」を開催しました。生涯教育講座では本学より鮫島邦彦教授と獣医6期卒淡野照雄氏が「最近の食料事情と食品を巡る問題について」講演しました。



## ◆◆ ラグビー部関東同窓会 ◆◆

6月5日(土)、東京新宿に関東地区在住のOB 21名が集合しました。今回は部創立以来指導者だった植崎昇名誉教授をお迎えし、酪農学園の現況と最近の部の状況を伺いました。懇親会では親子ほど異なる先輩・後輩であったが一つのチームで語り合っている雰囲気でした。

## ◆◆ 静岡支部同窓会 ◆◆

6月6日(日)、静岡支部総会が開催され、高橋連合会長が出席して同窓会の総会および学習懇談会が行われました。総会では役員の交代が行われました。



## ◆◆ とわの森三愛高校(旧三愛女子高校)同窓会 ◆◆

6月12日(土)、旧三愛高校21期生会が札幌で開催されました。当日は山崎恵子会長や村山昭二校長、旧教職員が出席し、同窓生との旧交を温める機会となりました。

## ◆◆ 埼玉県支部同窓会 ◆◆

6月13日(日)、埼玉県支部総会とシンポジウムが開催され、大谷俊昭大学長、安宅一夫短大学長、高橋連合会長が来賓として出席しました。基調講演として講師金子保之(獣医昭和51年卒)が「BSEの問題点と今後について」講演されました。

## ◆◆ 上川中央支部同窓会 ◆◆

6月19日(土)、旭川市にて大谷学長、高橋会長が来賓講師として出席し、総会と生涯教育が開催されました。総会では決算報告、会則の一部改正、役員の改選等が審議され承認されました。

## ◆◆ 獣医学科1期生同窓会 ◆◆

6月19日(土)、水戸市にて獣医1期同窓会が開催され、山下正亮先生ご夫妻、牛島純一先生、田坂隆美先生、湯浅亮先生を囲んで17名が出席し、獣医学科草創期の思い出話等で有意義な交流となりました。



## お知らせとお願い

\* 同窓会連合会のホームページを同窓会活動にご活用ください。  
HPアドレス <http://www.rakuno.ac.jp/dosokai/iriguchi.htm>  
\* 住所変更された同窓生の方は下記のいずれかの方法で、同窓会事務局までご連絡ください。  
TEL: 011-386-1196 / FAX: 011-386-5987  
Eメール: rg-dosok@rakuno.ac.jp  
手紙・ハガキ: 〒069-8501 江別市文京台緑町 582  
酪農学園同窓会事務局

## 酪農育英会だより

## 1. 2003年度事業報告

## ◎奨学金貸与

大 学 生	31名	1,426万円
高 校 生	6名	144万円
計	37名	1,570万円

## ◎私費留学生奨学金給付

アジアからの私費留学生	12名	600万円
-------------	-----	-------

## ◎研究奨励金

保坂善真大学助手	30万円
日本酪農青年研究連盟	10万円

## 2. 2004年度事業計画

## ◎奨学金貸与(1名につき)

大 学 院 生	2名(月額)	5万円
大 学 ・ 短 大 生	32名(月額)	4万円
※ 1999年度以前入学者	2名(月額)	3万5千円
高 校 生	9名(月額)	2万円
総 額	45名	1,956万円

## ◎私費留学生奨学金給付

大 学 院 生	3名(月額)	5万円
大 学 生	9名(月額)	4万円
総 額	12名	612万円

◎研究奨励金	個人	30万円
	団体	10万円

## 3. 奨学金返還について

返還月の前月には返還明細書と返還払込書をお届けしています。返還金は直ちに次の奨学金として運用されますので忘れずに返還(お振り込み)ください。

なお、住所変更、改姓届けおよび返還に関するご相談は下記へご連絡ください。

財団法人 酪農育英会  
TEL 011-386-1211

※酪農育英会は、勉学意欲が有り、経済的に修学困難な学生に対しての、修学助成を目的として運営されており、毎年4月には大学、短大、高校を通じ奨学生の新規募集を行っています。(今年度分は終了)限られた予算の中ではありますが、貸与は無利息で、できる限りの助成を行っています。育英事業を次の世代へ引き継いでいくためにも皆さまのご協力をよろしくお願い致します。

## スポットニュース

◆三愛高校農業クラブ  
大学生に講義◆

6月3日、とわの森三愛高校の農業クラブ執行部6人が大学を訪れ、長谷川豊教授の農業科教育法(教職課程)の時間で、「農ク・イン・メッセージin大学」と題して農業クラブの活動内容等について講義をしました。

会長の森和也さん(3年)は「皆さんに内容が伝わっているか、質問にきちんと答えられているか不安だったが、わかってもらえたようなので良かった」と話していました。

◆サム・ロットマン氏  
ピアノ演奏会◆

キリスト教教育委員会は6月18日、ピアニストのサム・ロットマン氏の演奏会を中央館学生ホールで行いました。

ロットマン氏はコンサートと証し

を通してイエス・キリストを人々に伝えていきます。この日は「私の人生にとって音楽ではなくイエス・キリストが最も大切である。それは、イエス様だけが私たちの心を変えることができるから」とメッセージをいただくなど、素晴らしい時間を共に過ごすことができました。



## 役員変更

常務理事	退任	菊池利治
常務理事	就任	渡邊誠治

(2004年5月24日付け)

## 人の動き

2004年7月6日発令

[兼務解職]

学務部 部長 渡邊誠治  
(前:常務理事 兼 学務部長)

2004年7月7日発令

[昇格異動]酪農学園大学

学務部 部長 荻原康之  
(前:教務課 課長)  
附属家畜病院事務課 課長 林多喜夫  
(前:就職課 主任主事)  
教務部教務課 課長 新政文  
(前:教務課 主任主事)

[人事異動]酪農学園大学

入試部入試課 主任主事 加藤浩  
(前:総務課 主任主事)  
就職部就職課 主任主事 伊藤顕史  
(前:入試課 主任主事)

## 訃報

本学園に多大なご尽力を賜りました、「酪農讃歌」作曲者、賀川純基氏(81)が3月28日、ご逝去されました。学園役職員一同、ご家族の上に慰めと平安がありますようお願い致します。

酪農讃歌は、賀川豊彦氏の来校を機会に作詞を依頼し、ご子息の純基氏が作曲をしてくださいました。

ここに、改めて衷心より深く感謝申し上げます。

## 編集後記

7ページで紹介した松本さんは、5月下旬に行われた学校礼拝で、このボランティア体験についてお話しされました。今回の学園だよりでは伝え切れなかったエピソードや写真をたくさん私たちに紹介してくださいました。松本さんのお話は、聞いている人たちに「自分も何か始めよう」とい

う気持ちにさせてくれるような、力強いものがありました。その気持ちは、松本さん自身の「行動する」勇気がなければ生まれなかったと思います。

今後も、こういった学生の活動を多く採り上げ、それを読んだ皆さんの勇気につながれば、と思います。(0)

## 酪農学園だより

RAKUNO GAKUEN Vol.102  
発行:学校法人酪農学園 2004.7.31

酪農学園大学/大学院/酪農学園大学短期大学部  
とわの森三愛高等学校  
編集:学園広報室  
〒069-8501北海道江別市文京台緑町582  
TEL(011)386-4158 FAX(011)386-4157  
HPアドレス: http://www.rakuno.ac.jp/  
Email:koho@rakuno.ac.jp